

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	作製条件によるセルブロックのゲノム診断試料としての品質評価
	研究目的	細胞診材料から作製されるセルブロック(CB)は、遠心分離により収集した細胞成分を凝固・固化させ、組織片と同様にパラフィンブロックとする方法である。生検材料と同様に免疫染色や遺伝子検査を行うことが可能で、非常に有用な材料である。しかも、材料採取法の技術革新(EBUS, EUS など)により、より侵襲の少ない吸引針生検での材料提出が多くなり、その有用性が増している。しかし、CBの作製方法は多数あり、どの方法が遺伝子検査等に最も有用であるかの標準化は進んでいない。そこで、種々の条件で作製されたCBを対象としてゲノム診断試料としての品質を検討し、どのような作製方法が望ましいのかを検討する。材料はALK融合遺伝子などの陽性培養細胞と肺癌あるいは乳癌体腔液貯留検体の細胞学的検査にて陽性所見の得られた検体の残余検体である。特に後者においてはALK融合遺伝子、HER2増幅等のドライバー遺伝子異常のある検体を優先する。
	研究期間	西暦 2017年8月10日～西暦 2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input checked="" type="checkbox"/> その他(胸水、腹水などの体 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録       腔液)
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	横瀬智之
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科、検査科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし